

あなたの観察力と情報発信「この下痢は???'から対策へ

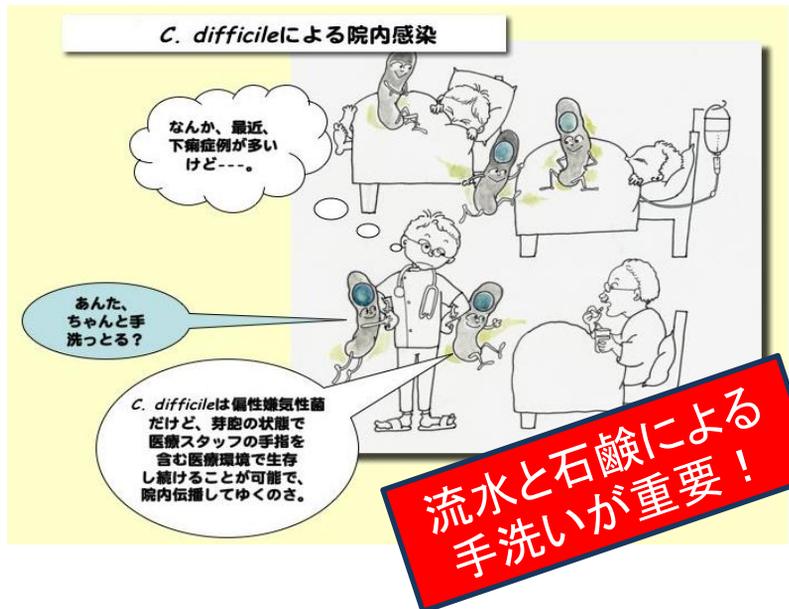
ディフィシル菌(*Clostridium difficile*)は、抗菌薬治療が行われた時に正常な腸内細菌叢が攪乱される結果、この菌の異常増殖と毒素産生が起これ下痢症が発症します。

この細菌は、芽胞と呼ばれるバリアを体の周りに形成するという特徴があり、アルコールに抵抗性があります。そのため、流水と石鹼による手洗いが重要となります。

接触予防策を実施し、その対策は下痢が消失するまで継続する必要があります。下痢が消失してから数日間は糞便に排菌することがあるため、しばらくは石鹼手洗いを実施することが必要です。

CDを診断された場合は、以下の感染対策必要となります

- ★個室隔離(軟便・水様便)
- ★防護衣の着用
- ★流水と石鹼による手洗い
- ★ピューラックスによる消毒
- 高頻度接触面は 60倍
- その他 120倍
- ★患者、家族等面会者にも防護衣・手洗いの説明を実施する



患者に関わる全ての医療従事者に、対策がわかるマークを!



or



※大部屋の入院患者さまで、尿・便・創部等から耐性菌が検出されている患者の感染対策について、右記のようにマーク表示をしますので、手指衛生遵守に御協力下さい。

➡ 基本はアルコールによる手指衛生です。

➡ CD、ウェルシュ菌等の芽胞菌検出患者は、流水と石鹼による手洗いが必要です。